

## 飢餓の技術的終息？ ガザの人道的危機は続いている

パレスチナ・クロニクル・スタッフ著、脇浜義明訳

パレスチナ・クロニクル、ガーディアン、アル・ジャジーラ、 2025年12月20日



国連はガザ地区における人為的な飢饉状態を宣言した。(Photo: via QNN)

国連の専門家筋は、正式なガザ飢饉は終息したが、厳しい冬の嵐と洪水に襲われ、10万人の避難民が依然として破局的状態にあると報告している。

国際食糧監視団体は、ガザ回廊の「飢饉」指定を正式に解除したが、人道的現実は依然として厳しく、深刻な「人類史的失敗」のままであると述べた。国連の総合的食糧安全保障段階分類（IPC）の最新報告によると、約10万人のパレスチナ人が依然として「破局的状況」で苦しんでおり、食糧不安定の最高レベルにある。報告書は、10月の停戦以降栄養状態は少し改善しているものの、状況はまだ「非常に脆弱」とであると指摘している。8人に1人が依然として深刻な食糧不足に直面しており、16万人の人々が冬の間に「危機的」レベルの飢餓に陥ると予想される。

国連の専門的な分類の変更は、厳しい冬と闘っている家族にとって、何の救済にもならない。IPCも「ガザの生活状況は依然として破局的で、冬の天候によっていっそう悪化している」指摘している。豪雨と暴風から身を守ることができない破れたテントの中で生活している避難民にとっては、特に厳しい。

医療関係者はこの状況が命にかかわると強調している。最近、生後29日の乳児がナセル病院で低体温症で死亡した。ナセル病院は、毛布や暖房といった基本的救命用品があれば防ぐことができた悲劇だと言っている。

IPCは、ガザの食糧状況は現在の不安定で、事実上イスラエルによって日常的に破られている停戦に全面的に依存していると述べている。「紛争が再開すれば、ガザ回廊がまたもや飢餓に直面する」と述べ、生存の幅が薄いことを指摘している。

ガザ回廊の食糧自給手段は完全に破壊されている。IPC の調査によると、「ガザ回廊の農地の96%以上が破壊されているか、アクセス不可能な状態」にあり、住民は全面的に外部からの援助に依存せざるを得ない。

イスラエル占領地政府活動調整機関 COGAT は、援助物資量は十分であると主張しているが、オックスファムなどの人道支援団体は異なる報告をしている。数百万ドル相当の食糧や防寒用物資が国境でイスラエル当局によって足止めされている。

搬入物資制限が少し緩和されたものの、雀の涙ほどの改善で、国連は現在の援助物資搬入が漸続的で不安定であると言っている。IPC はこの危機は「人道支援の制限、避難、生活破壊」という人為的行為によって引き起こされていると述べている。

この「緊急事態」は偶発的事象ではなく、多くの国際法専門家や人権団体が「組織的ジェノサイド」と呼ぶ行為の結果である。2024年8月に頂点に達した飢餓は援助物資搬入の全面的阻止によって起き、国連は飢餓を戦争の武器として使うための「組織的な「援助物資妨害」と呼んだ。2年間にわたりガザ住民を意図的に飢えさせる戦略はジェノサイドの中核となり、栄養失調だけで数百人が死亡した。

国際的な圧力で援助物資搬入は少し増加したが、封鎖構造は依然として続いている。IPC は飢餓がいつ何時再発する可能性があるかと警告しているのは、軍事占領と封鎖が続き、パレスチナ人が人為的に作り出された生と死のサイクルの中に封じ込まれている現実を認識しているからである。